

学生生活最終年度の研究論文に向かって、研究計画を完成する

## 講義目的・到達目標

### 研究計画を完成する

大学生生活最終年度に研究論文(卒論)に取り組む人は、前年11月に研究計画(つまり論文完成のためのアクションプラン)を提出して審査を受ける。このスクーリングでは、審査に通る最低限の要件を満たすような研究計画を実際につくりながら、論理的な構成をもつ研究構想に仕上げていく。

### 論文やレポートの書き方のコツを知る

原則として、研究論文執筆予定の人を対象とするが、みなさんが職場で「レポート」を執筆するケースも想定しながら、論理的な表現や文章作成の作法を身につけられるようにする。また、ものごとを論理的に論証する方法として、量的調査、質的調査の一端を解説する。

## 講義の構成

### 講義の流れ

1. 講義「論文作成基礎 I の復習を中心に」
2. ゲスト講義「福祉現場のレポート作成」
3. 研究計画の公開添削と質疑応答
4. 講義「調査と執筆の留意点」
5. ゲスト講義「論理的な文章の書き方」
6. グループワーク「研究計画の相互コメント」
7. グループ発表と全体での意見交換
8. 筆記レポート作成

### Cさんの研究計画の添削例(一部抜粋)



### 講義のポイント

担当教員による講義、著作経験豊かな学習指導教員や現場経験の長い教員によるアドバイス、そして受講生それぞれの研究計画をめぐる相互討論を通じて、完成度の高い研究計画に仕上げていく。事前に提出された受講者による研究計画の公開添削や質疑応答により、事例に即して優れた研究計画を考える。最終年度の研究論文執筆にチャレンジする人は、この科目と論文作成基礎Iとをあわせ履修することを強く推奨する。

## 受講するにあたって

### ①事前学習の すすめ

履修生全員が、自分のテーマに即した「研究計画」を用意すること。これを基に分科会でのピア・レビュー(相互コメント)が行われる。また希望により公開添削・解説の対象とする(応募多数の場合は選抜)。分科会の際にも、用意した研究計画に対して教員・講師による個別のコメントを得ることができる。

### ②参考図書

- ・岩田正美ほか編『社会福祉研究法』有斐閣、2006
- ・笠原千絵ほか『地域の実践を変える社会福祉調査入門』春秋社、2013
- ・桜井厚『インタビューの社会学：ライフストーリーの聞き方』せりか書房、2002
- ・谷岡一郎『「社会調査」のウソ：リサーチ・リテラシーのすすめ』文春新書、2000
- ・木下是雄『理科系の作文技術』中公新書、1981

### ③評価基準

最終時間に作成するレポートにより採点する。

- ・自分の問題意識と関連づけて講義を的確に理解している者はA
- ・単に自分の関心のみを漠然と述べるもの、単に講師の述べたことを筆記するのみの者はB
- ・上のうち明瞭な文章で記されていないものはC
- ・講義や分科会の内容をまったく理解していない者はD

### ④より学びを 深めるために

この講義のあとは、いよいよ研究に着手する。迷った時は参考書や指導教員や友人に相談しつつ、自分のテーマを追求すること。